



2025 神奈川区つながりまちづくり学校 第2講

「他都市から学ぶこれからのまちづくり」

～活動の耕し方・6つのツボ～

日 時: 2025年11月16日(日) 13時～16時
会 場: かなーちえ(神奈川区地域子育て支援拠点)
講師: 喜田 亮子 氏
(一般社団法人町田市地域活動サポートオフィス
事務局長)
総合ファシリテータ: NPO 法人親がめ塚原泉氏

- あいさつ
- アイスブレイク「5人とトーク」
- 講義&ワーク「これからのまちづくり」
- まちカフェ
- ふりかえり・ひとこと感想共有
- 保育1名(1歳) 保育協力者2名

■ アイスブレイク♪ ココロとカラダをほぐし、互いを知り合う

第2講はつながりまちづくり学校の前身である、地域づくり大学校卒業生(以下、卒業生という。)も参加。受講生のつながりまちづくり学校の参加動機や、卒業生の活動内容等が一覧になった用紙を片手に、15分間のうちにできるだけたくさんの人と語り合います♪

■ 講義「他都市から学ぶ これからのまちづくり」

地域づくり6つのツボ

1. 活動の目的(ビジョン)や使命(ミッション)を大切に

個人◎～集団◎～組織◎～法人◎

個人のミッション～組織のミッション

◎→◎となるのが必ずしも目指すべきところではない
法人という選択肢が存在するというのが大事

どのかたちも「ある」ことが豊かな社会

2. お客様はつくらない、役割を作ろう

地域活動、市民活動は営利を目的とする企業ではない
一日だけのボランティアでも動機をもって参加する人
を大事にしたい

3. 他の人のイベントに参加しよう

外からイベントを見てみると見えてくることがある
他団体とのおたがいさまの関係づくりにも

4. 「まね」をしよう

全くのオリジナル、はむずかしい→助成財団にある事例や行政のモデル事例は参考になる

「まねをさせてください」のご挨拶が大事。気をつけること、困難なことをヒアリングしよう

5. 弱み(足りない、困った)はシェアしよう

資源は限られている→自分たちでなんとかしようとしがちだが、困りごと参加を広げるチャンス困っているということで集まってくれる人がある

活動の真ん中に作業を→一緒に手を動かすことは関係をつくる

(c.f チラシの発送、壁の装飾)

6. まずは自分が楽しむことから

「真剣に」楽しむ、スタッフがピリピリしない、テンションは参加者の1.2倍くらいがいい

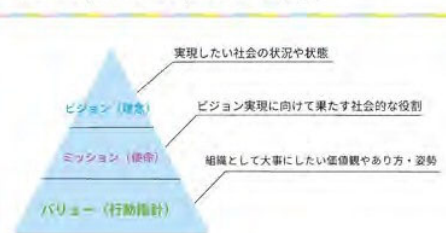


山形県民会議「私が動く、地域が変わる～今見つけ出す市民活動の価値と未来」より

ビジョン・ミッションを考える

- ・3人のレンガ職人の話「何をしているの？」の質問に～
 - ④無愛想に「レンガを積んでいる」、⑤無愛想に「壁をつくっている」、⑥誇らしげに明るく「大聖堂をつくっている」。大聖堂＝ビジョン
- ・ビジョンやミッションは目的として個人と活動と社会を結びつけるもの
企業：利益をあげること
行政：公平に住民全体の生活を豊かにする
- ・ビジョン（理念）ミッション（使命）バリュー（価値）を言語化・共有しよう助成金を申請する際は 背景（現状）、目的（ビジョン）、目標を明確に
- c. f) NPO 法人多汗症サポートグループのビジョン
「たかが汗、変えていく」
- いいビジョン・ミッションは
目指す状況がイメージできる／実現可能性が感じられる／シンプル／関係者の共感が得られる
自分たちがやることが明確／具体的／自分たちの強みがいかされている／社会のニーズに応えられている

ビジョン/ミッション/バリューの定義



ターゲット・ペルソナを考える

- ・自分たちが活動を届けたい相手はだれか？万人受けは誰にも響かない
「こども」と一口にいても・・・赤ちゃん、幼稚園児、小学生、中学生、イメージはひとそれぞれターゲットによって活動・イベントのデザインが変わってくる 開催場所・開催時間・・・
- ・ターゲットをものすごく具体的にしたもののがペルソナターゲット：10代男性、高校生
ペルソナ：住んでいる地域、通う高校、家族関係、趣味、情報収集方法、最近の「困りごと」等
成功例）スーパーストック東京、カルビーのじゃがビーなど
- ・自分たちのメッセージを届けたい人が数人来れば 100 人来るよりも意義がある
- ・ペルソナを話し合う
スタッフ間で固有名詞を出して話し合う ペルソナはこの場に来るかな？と想像する
ペルソナに近い人、3人にインタビューする。（どんなことがあると参加しやすいか、どのような媒体での周知が良いか等）
- ・ターゲットやペルソナは、参加者だけでなく、ボランティアを募集するときにも用いることができる
- ・大多数の悩みは、目的・対象者がはっきりしない、共有できていないことから生まれる

質疑応答

- Q. 個人のパッションを組織のミッションにしていくには？
- A. 以前は助成金を出す組織に在職していて全国の活動支援を行っていた。
もう少し地域に近いところで実践的に取り組んでいきたいという思いで、現団体を3人のコアメンバーで立ち上げた。
ビジョンやミッションについては各々が考えて、それを突き合せ、議論した。
おおむね共通していたが、議論が分かれたのは「課題解決」について。必ずしも課題解決をめざさなくても、ひとりひとりが参画し市民の主体が形成されていくことが大事、やってみたいを応援することが大事等々と議論して、今のビジョン・ミッションにたどり着いた

- Q. 立ち上げにかかる資金や働きはどうするのがいいのか？本職を続けながら自己資金で負担していくのか、退職していきに取り組むのがいいのか、迷っている
- A. 非営利活動にとって全員が有給の職員というのは、うまれる価値が限られてしまうお金をもらわなくてもやりたい活動があることが豊かな活動
- c. f)会社帰りにボランティアすることが生きがい二元論で考えない、急いで収益を出そうとしないことは大事
- 介護や子育て支援の分野は制度的補助金が活用できる新しい分野ではまずはボランティアになる
- Q. 本当に来てほしい人が来てくれればいいという言葉は、大変勇気づけられたが、行政的には評価軸が参加者人数になる。その葛藤をどうすればいいか
- A. よくわかる。対象は本当に来てほしい人に絞ったまま、口コミや周知媒体を増やす等参加者が増えるようどちらも頑張る。人数を増やすことに走って、対象がぼやけると結局参加人数も減る。

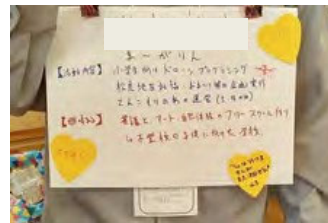
ワーク 10 年後の手紙 – 私たちの未来を想像しよう –

- ・ 10 年後、団体にかつての参加者から感謝の手紙が届く
「活動の何がよかったのか」「それによってその人にどんないいことがあったか」「地域や社会がどんなふうに変わったか」について想像して記入
- 他のメンバーとグループ内 2、3 人で共有
- ペルソナの気持ちを想像できる
- ・ 自分たちが対象者に届けたい価値がはっきりする
- ・ あたたかい気持ちになる→スタッフ間のミーティング等にも活用するとい



■ まちカフェ – 卒業生を迎えて –

- ・ 「活動内容」、「興味のある分野」等を記載した用紙を見せ合い、協力できることや、卒業生からのアドバイス等の交流タイム。
- ・ 連絡先の交換も進み、この交流をきっかけに、受講生が卒業生の活動に参加するなどつながりづくりとなった。



■ ふり返しシート（受講生の声）

講義「他都市から学ぶ これからのまちづくり」について

◆本日の気づき

- ・ その人に根差した機会や企画を考えることが今後の団体活動にはとてもプラスである感じた
- ・ ビジョン、ミッションについて、知っているようで知らないことを言語化してくれる講座だった
- ・ 「自分がやりたい」と「やっていること」と明確にビジョンにすることが大事
- ・ 10年後の手紙では、誰に向けて誰に届けたいかという活動への新しいきっかけにつながった
- ・ 10年後の手紙は改めて自分の希望や夢を再認識することにつながった

◆アクションプランにどう活かしたいか

- ・ペルソナ設定を改めて立てたい
- ・自分が行いたい活動がどういう活動なのかをしっかりと説明できるようにしたいと思った
- ・ボランティアの「参加する側」のペルソナを考え、一緒にボランティアをする仲間を増やしたい

まちカフェー卒業生を迎えてーについて

◆本日の気づき

- ・やりたいことを話すことが大事。話せばまわりの優しい方が助けてくれる
- ・普段過ごしている地域でこんな活動しているんだ！という世界の広がりを感じた。信念を持って活動している方が多く、すごく刺激的だった。

◆アクションプランにどう活かしたいか

- ・まちの掃除の会を、お掃除ウォーキングと名付けて少し楽しそうな雰囲気を出したり、掃除をとおして健康づくりができるイメージを伝えたいと思った
- ・自分は高齢者メインの活動を行いたいとおもっているが、多世代の方との集まりを考えている受講生ともつながれば、できることが広がると思った